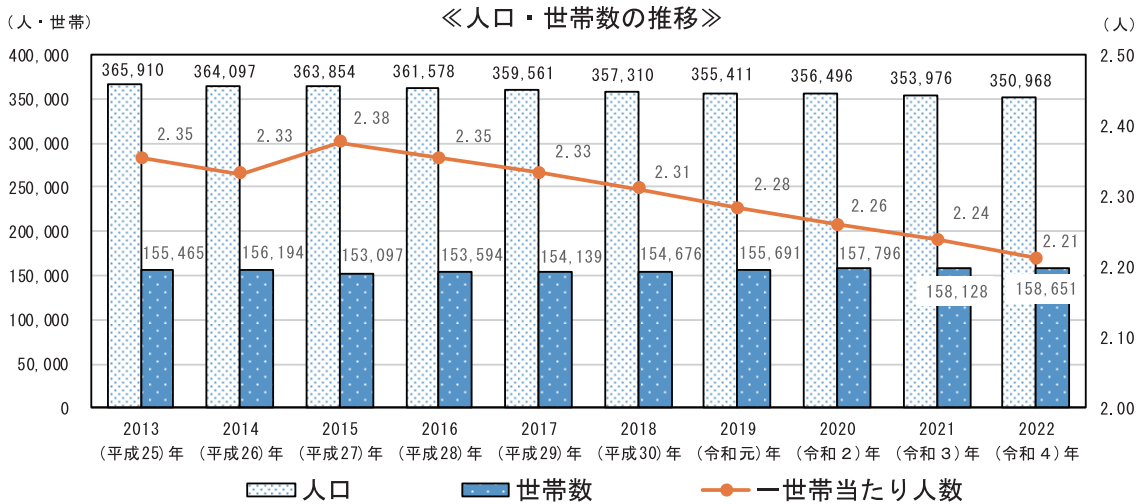


第2章

和歌山市民の健康状態

1 人口と年齢構成

本市の人口は2022(令和4)年時点で350,968人、世帯数は158,651世帯となっています。人口は減少傾向で推移していますが、世帯数は2015(平成27)年より増加傾向となっています。これに伴い、一世帯当たりの人数は減少傾向にあり、2022(令和4)年に2.21人となっています。



資料：和歌山市のデータ（統計・調査）人口・世帯（各年12月31日基準）

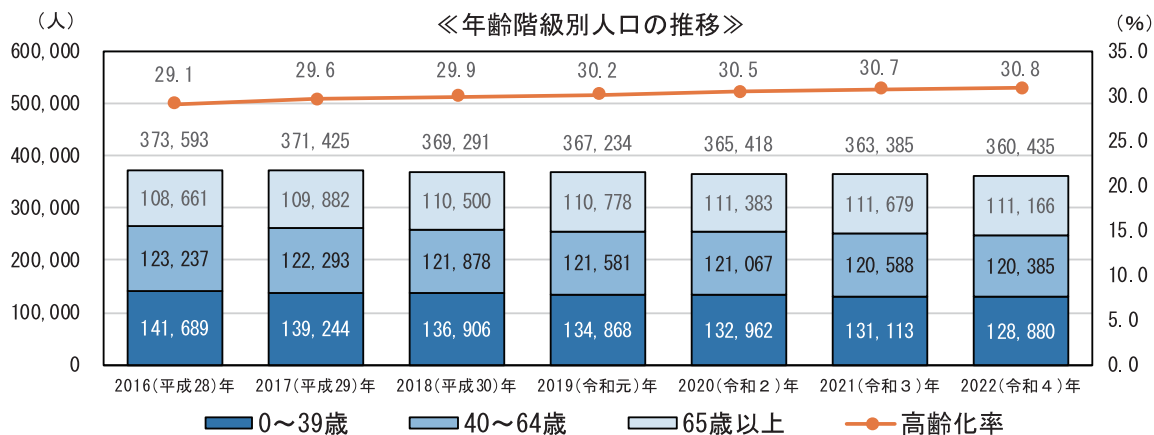
本市の一般世帯数は2020(令和2)年時点で157,310世帯であり、うち親族のみ世帯は100,948世帯、核家族*世帯は93,002世帯となっています。さらに、単独世帯は54,986世帯と一般世帯のうちの35.0%となっています。

《一般世帯の家族類型》 (世帯)

一般世帯 総数	親族のみの世帯				核家族以外 の世帯	単独世帯	非親族を 含む世帯
	核家族世帯			核家族以外 の世帯			
	夫婦のみの 世帯	夫婦とこども から成る世帯	ひとり親とこ どもからなる 世帯				
157,310	35,376	41,385	16,241	7,946	54,986	1,039	

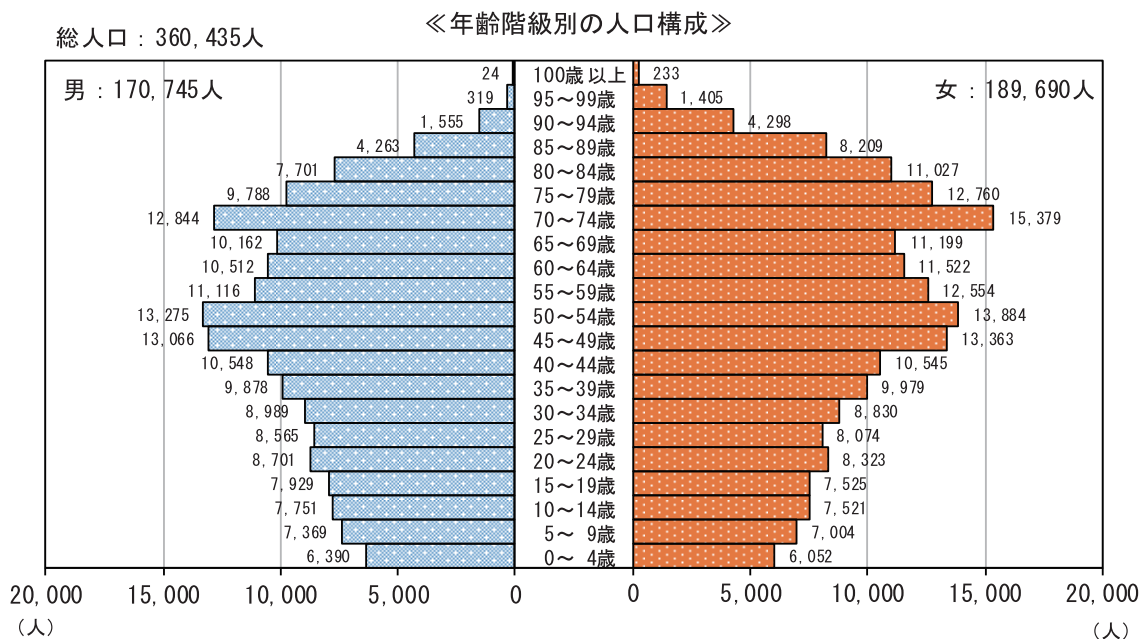
資料：国勢調査（2020（令和2）年10月1日基準、一般世帯数には不詳も含む）

年齢階級別に人口をみると、高齢化率（65歳以上の人口割合）は、2022(令和4)年で30.8%となっており、年々増加しています。



資料：住民基本台帳（各年9月30日基準、総数には年齢不詳も含む）

年齢階級別に2022(令和4)年の人口構成をみると、男性では50～54歳が最も多く、女性では70～74歳が最も多くなっており、高齢層と中年層が多い状況となっています。



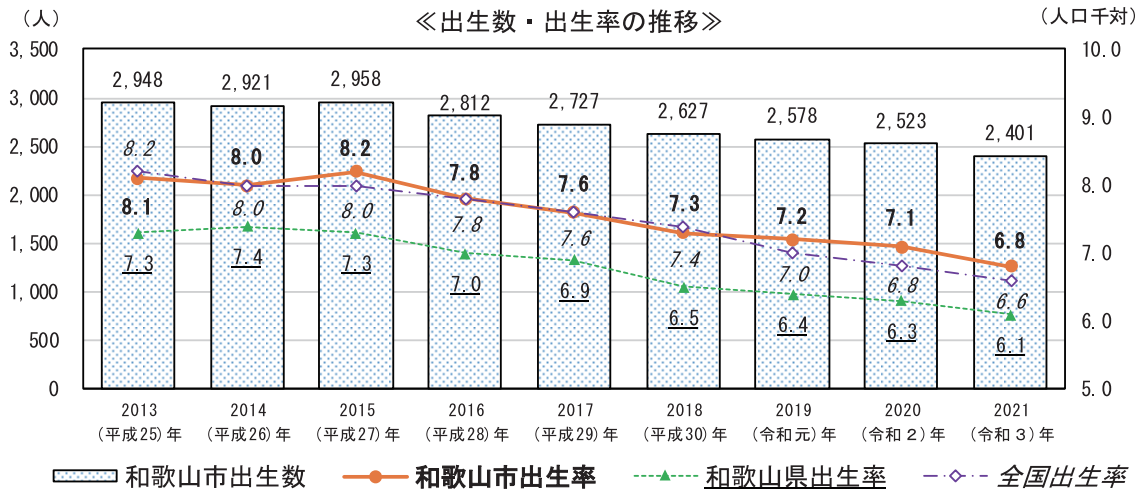
資料：住民基本台帳（2022（令和4）年9月30日基準、総数には年齢不詳も含む）

2

健康の状態

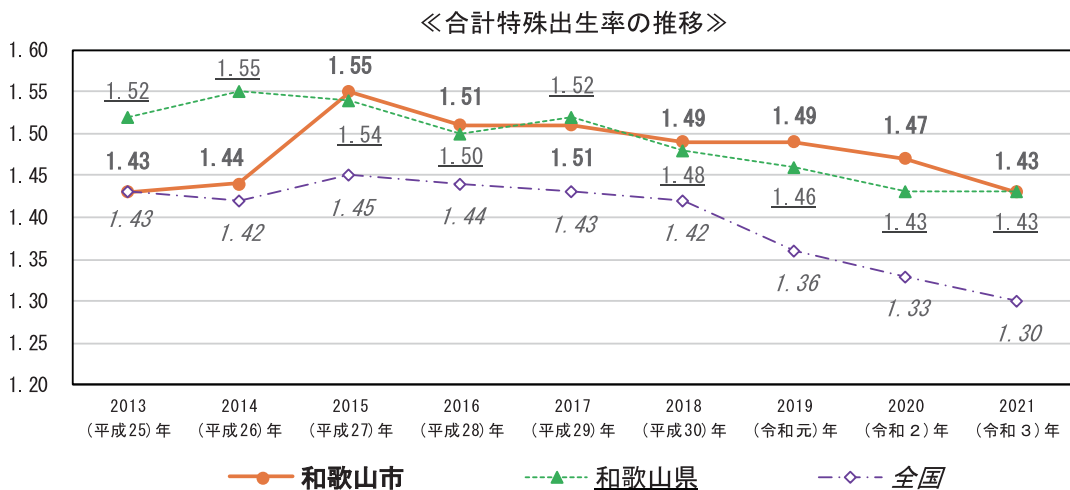
(1) 出生の状況

本市の出生数は2015(平成27)年より減少傾向で推移しており、2021(令和3)年に2,401人となっています。また、出生率(人口千人当たり)は2015(平成27)年より低下傾向となっていますが、全国及び和歌山県より概ね高い値で推移しており、2021(令和3)年で6.8となっています。



資料：人口動態統計

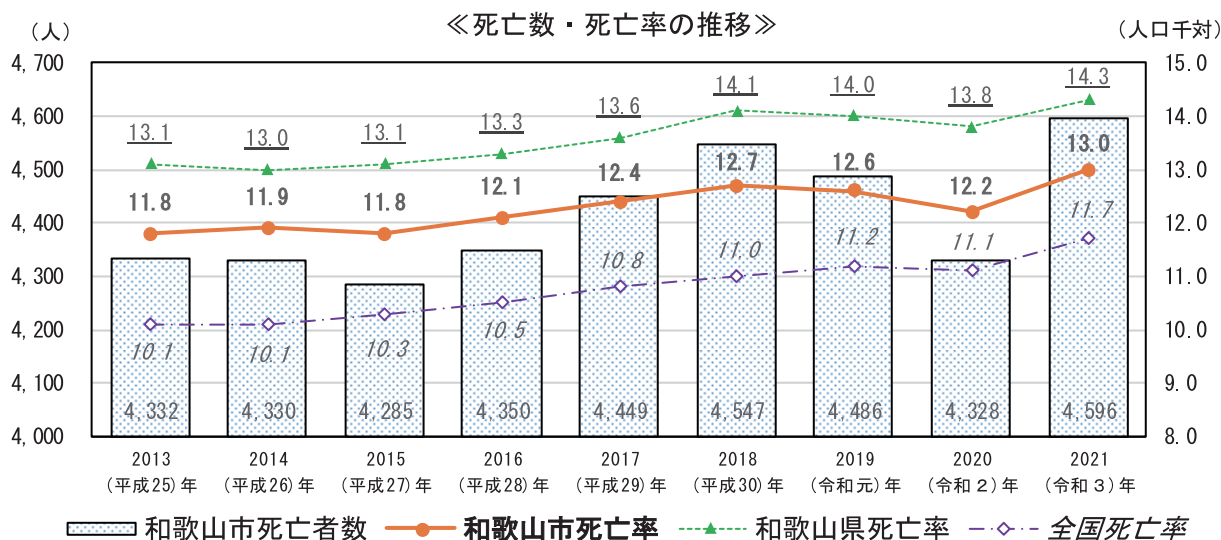
本市の合計特殊出生率*は、全国より高い値で推移しており、2021(令和3)年に1.43となっています。



資料：人口動態統計

（2）死亡の状況

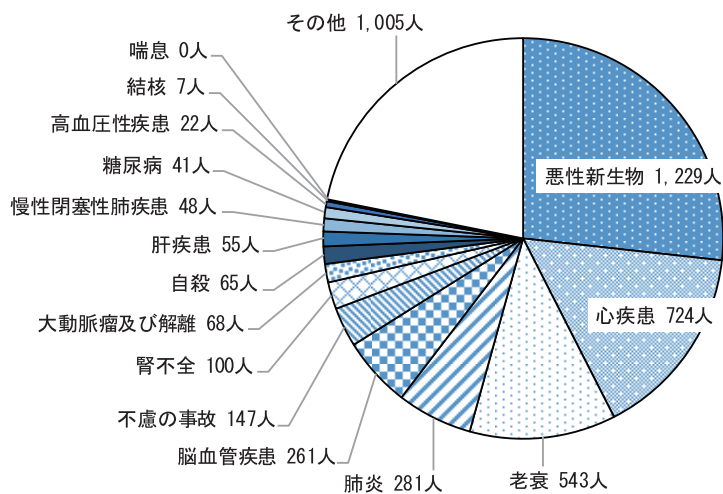
本市の死亡数は増減を繰り返しており、2021(令和3)年に4,596人となっています。死亡率（人口千人当たり）は全国より高い値で推移しており、2021(令和3)年に13.0となっています。



資料：人口動態統計

本市における2021(令和3)年の主要死因別死亡数は、「悪性新生物*」「心疾患」「老衰」の順に多く、これら上位3死因の割合は全国より高くなっています。

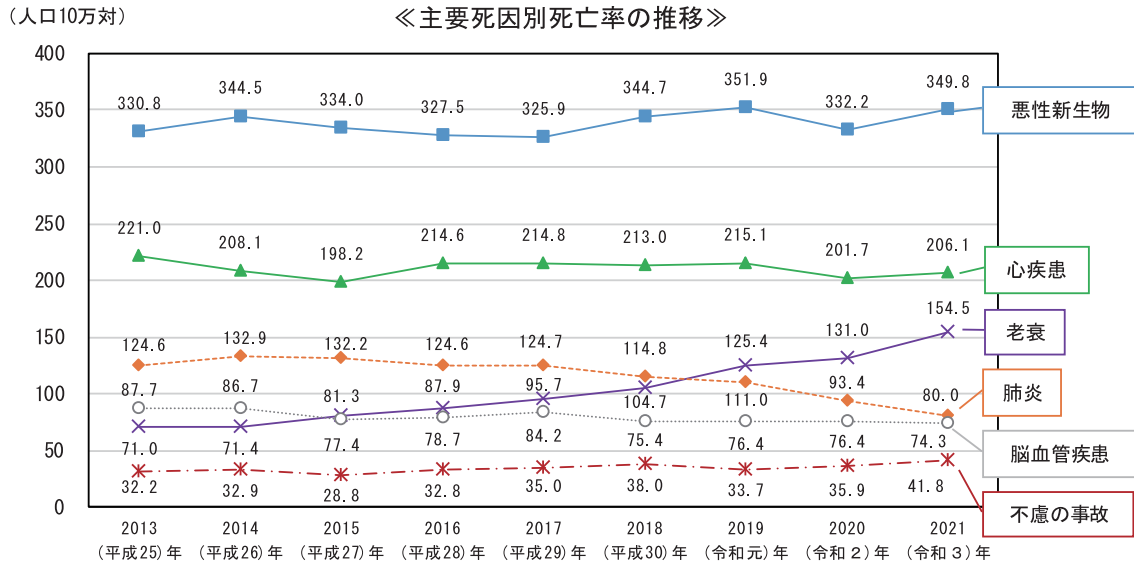
《主要死因別死亡数・割合》



死因別	和歌山市	和歌山県	全国
悪性新生物	1,229人	26.7%	25.5%
心疾患	724人	15.8%	14.9%
老衰	543人	11.8%	10.6%
肺炎	281人	6.1%	5.1%
脳血管疾患	261人	5.7%	7.3%
不慮の事故	147人	3.2%	2.7%
腎不全	100人	2.2%	2.0%
大動脈瘤及び解離	68人	1.5%	1.3%
自殺	65人	1.4%	1.4%
肝疾患	55人	1.2%	1.3%
慢性閉塞性肺疾患	48人	1.0%	1.1%
糖尿病	41人	0.9%	1.0%
高血圧性疾患	22人	0.5%	0.7%
結核	7人	0.2%	0.1%
喘息	0人	0.0%	0.1%
その他	1,005人	21.9%	24.0%
全死因	4,596人	100.0%	100.0%

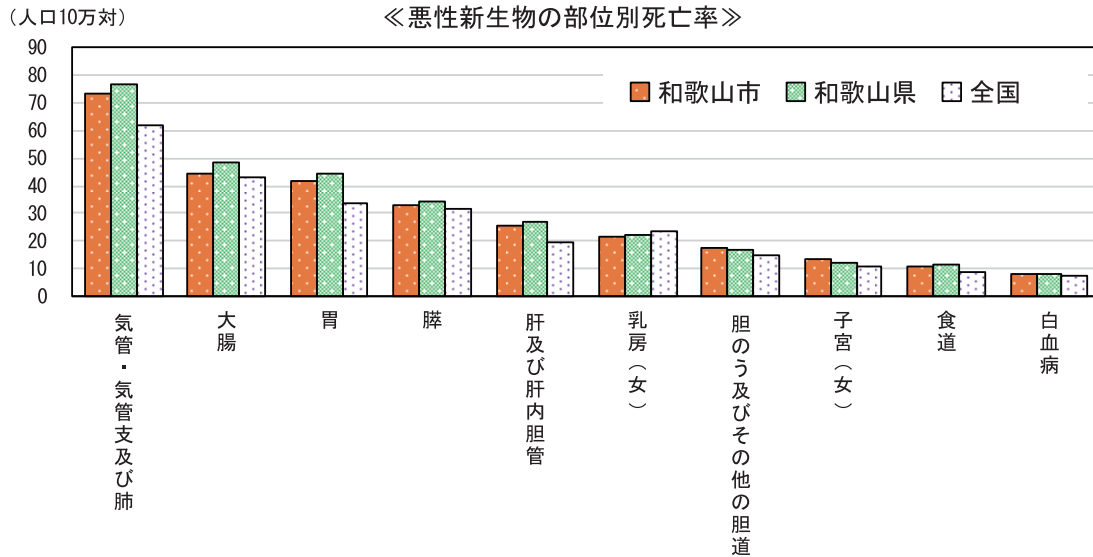
資料：人口動態統計

本市の主要死因別死亡率（人口10万人当たり）は、「悪性新生物」「脳血管疾患*」「不慮の事故」は横ばいで推移していますが、「老衰」は増加傾向で、「肺炎」は2014(平成26)年より減少傾向となっていることで、上位3位の順位が入れ替わり、「悪性新生物」「心疾患」「老衰」の順位となりました。



資料：人口動態統計

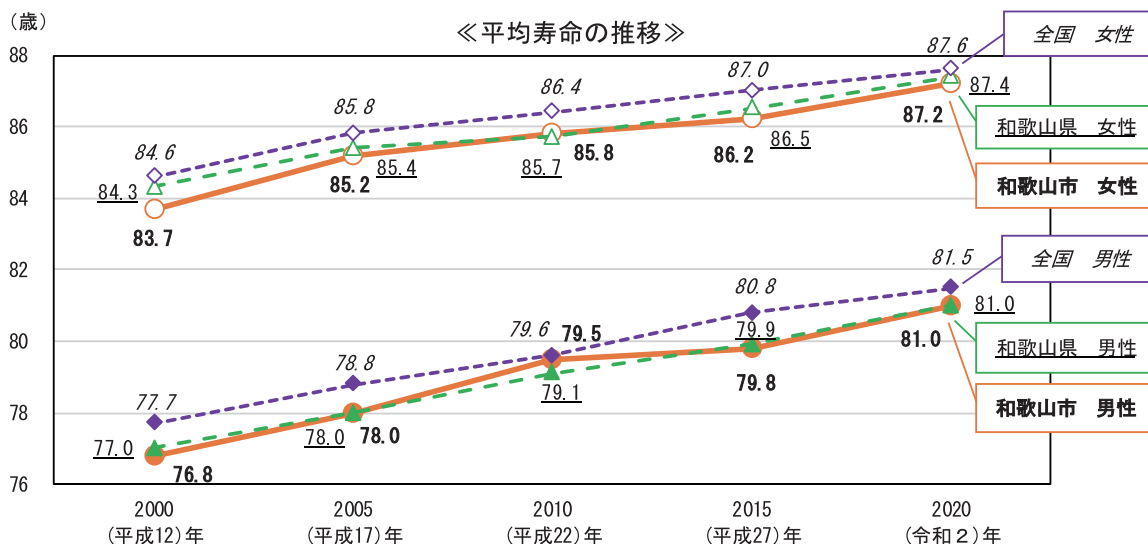
本市における2021(令和3)年の悪性新生物の部位別死亡率（人口10万人当たり）をみると、「気管・気管支及び肺」が最も高く、全国より高い値となっています。



資料：人口動態統計

（3）平均寿命

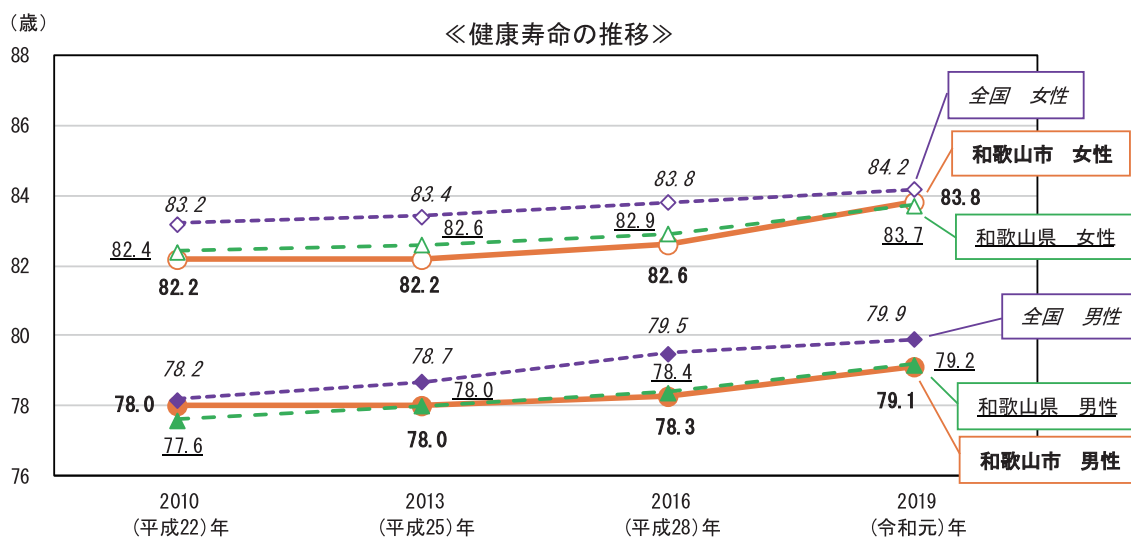
平均寿命は、2000(平成12)年から2020(令和2)年にかけて男性で4.2歳、女性で3.5歳増加しており、2020(令和2)年に、男性が81.0歳、女性が87.2歳と、全国より低くなっています。



資料：市区町村別生命表

（4）健康寿命

健康寿命（日常生活動作が自立している期間の平均）は、2010(平成22)年から2019(令和元)年にかけて男性で1.1歳、女性で1.6歳増加しており、2019(令和元)年に、男性が79.1歳、女性が83.8歳で、全国より低くなっています。



資料：令和3年度 厚生労働行政推進調査事業費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業）「健康日本21（第二次）の総合的評価と次期健康づくり運動に向けた研究」分担研究報告書「健康寿命の算定・評価と延伸可能性の予測に関する研究」

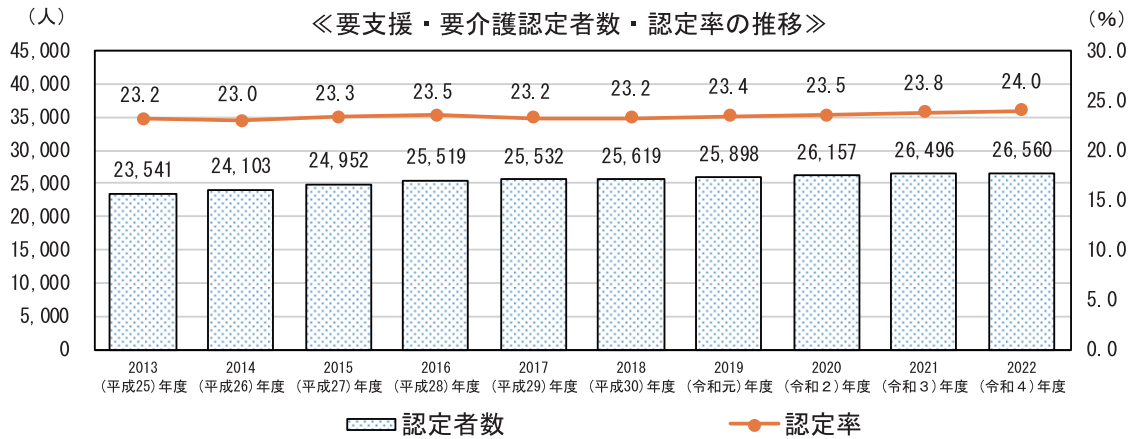
※本市と比較するために、同条件で算出されているものを使用しているため、国が公表しているものと異なります。

参考：国・県が公表している健康寿命（日常生活に制限のない期間の平均）

国：男性72.68歳 女性75.38歳（令和元年） 県：男性72.39歳 女性75.33歳（令和元年）

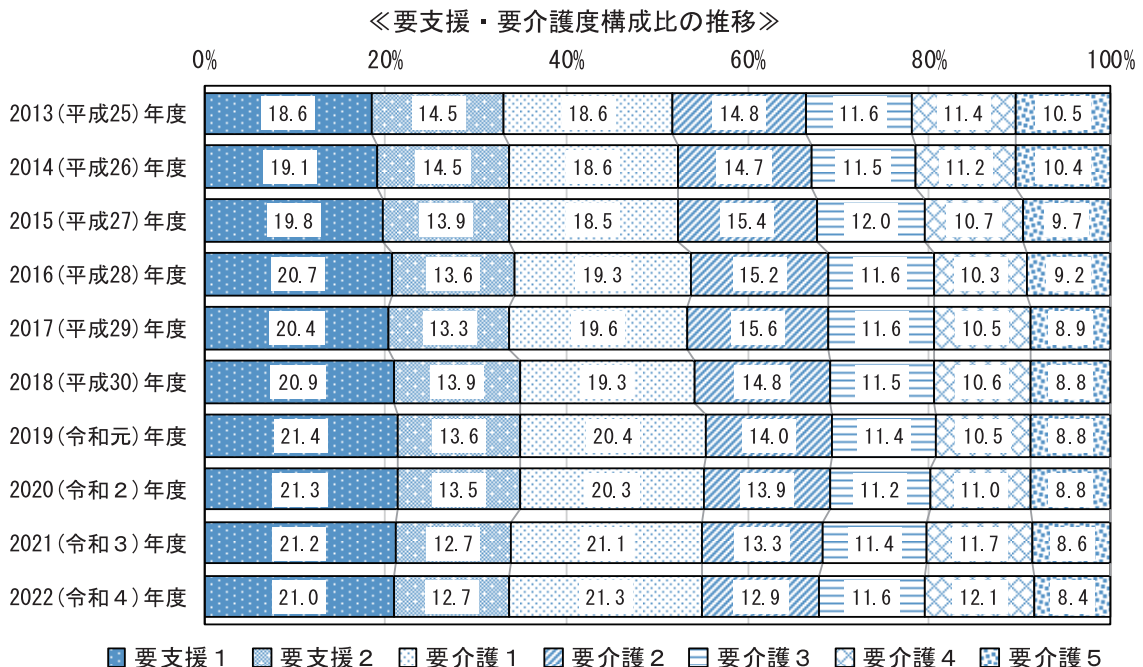
3 介護保険の状況

本市の介護保険の要支援*・要介護*の認定者数は、増加傾向で推移し、2022(令和4)年度に26,560人となっており、認定率（第1号被保険者*に対する認定者数の比率）は24.0%となっています。



資料：介護保険事業状況報告（各年度9月末基準）

本市の要支援・要介護度の構成比は、概ね横ばいで推移していますが、軽度（要支援1・要支援2・要介護1）でみると、2013(平成25)年度から2022(令和4)年度にかけて3.3ポイントの増加となっています。

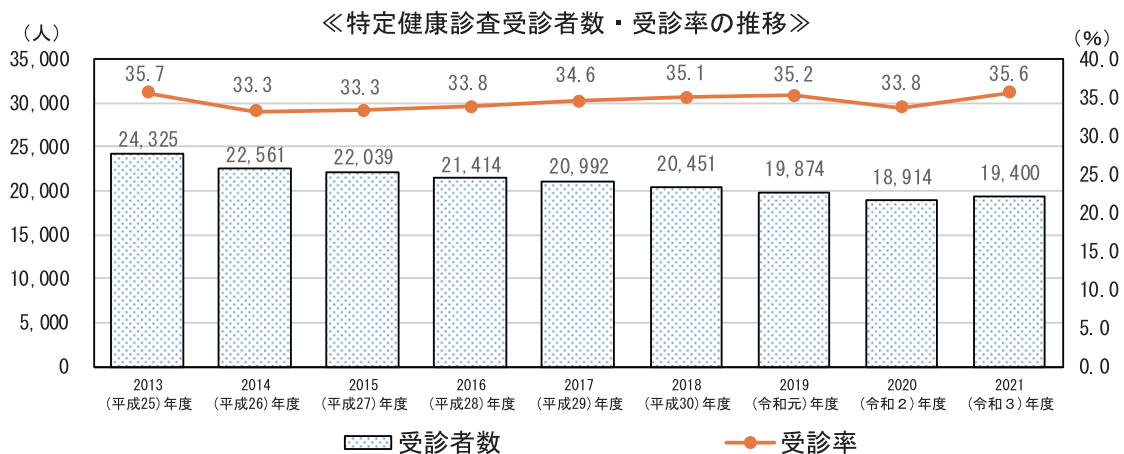


資料：介護保険事業状況報告（各年度9月末基準）

4 市民の健康度

(1) 特定健康診査の状況

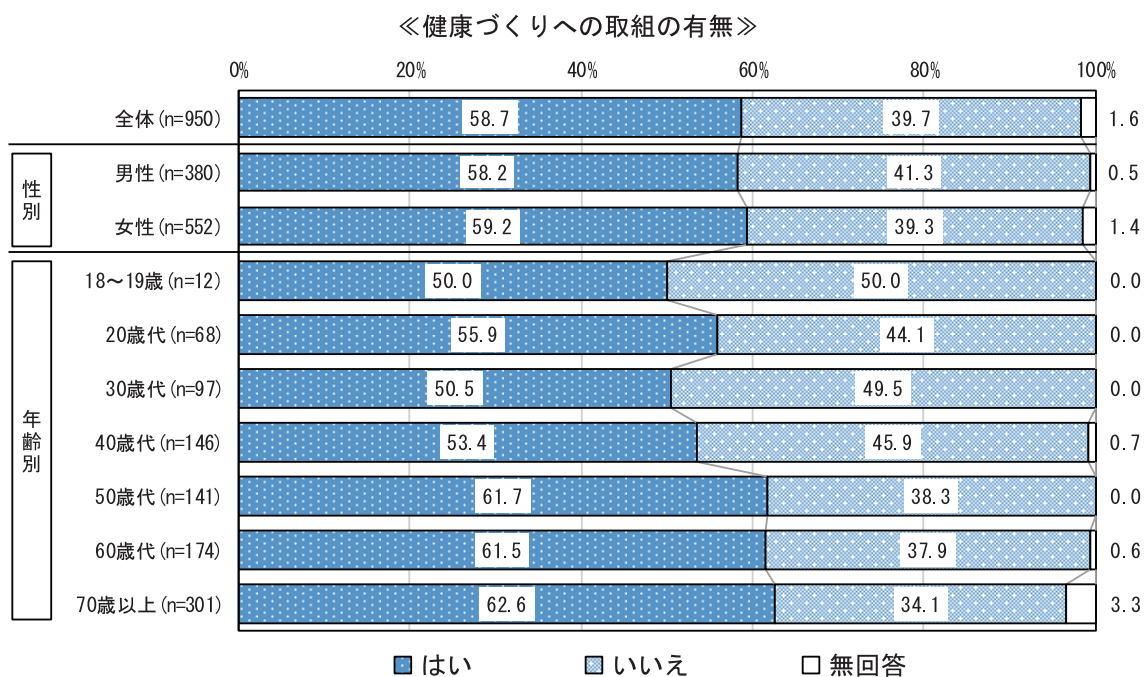
本市の特定健康診査*の受診率は、概ね横ばいで推移しており、2021(令和3)年度に35.6%となっています。



資料：和歌山市国民健康保険

(2) 健康づくりへの取組状況

本市の市民対象に意識的に健康づくりに取り組んでいるか尋ねたところ、全体で58.7%が取り組んでいました。性別で見ると、大きな差はみられませんが、年齢別で見ると、50歳以上では取り組んでいる人が6割を超えています。



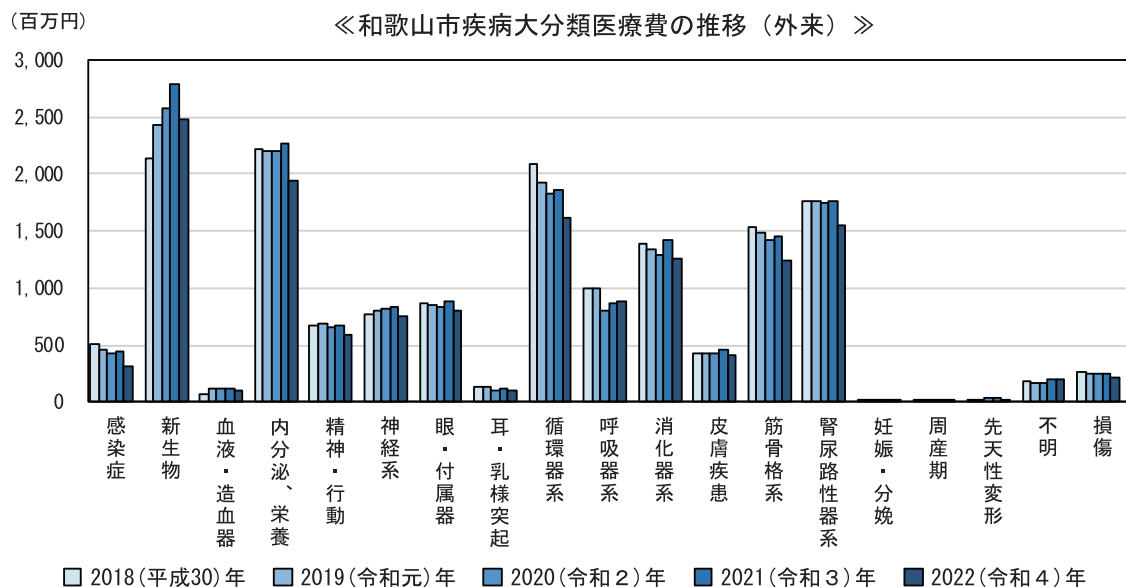
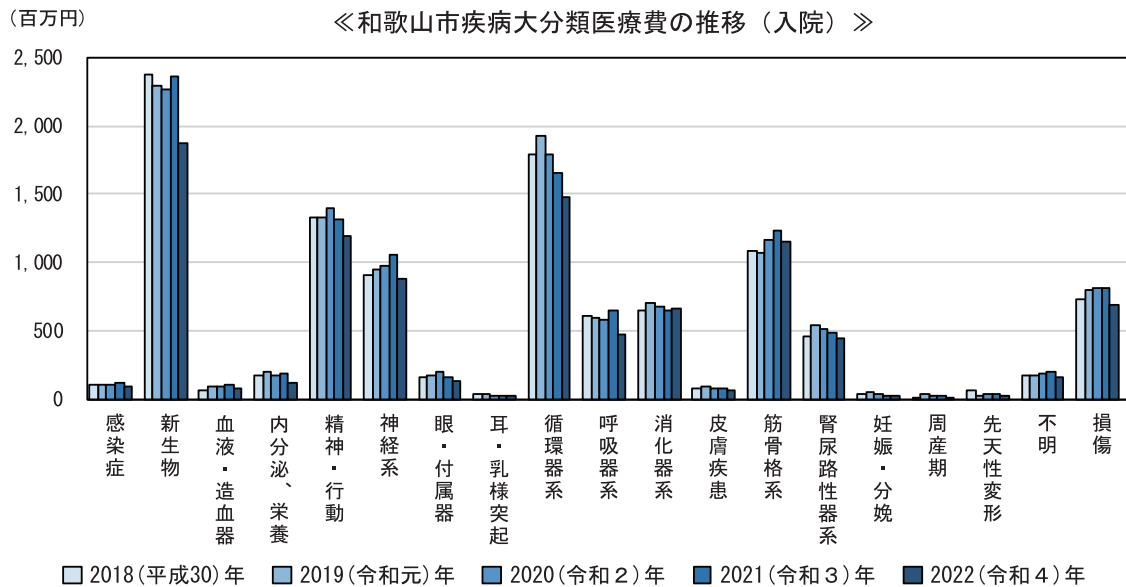
資料：市政世論調査（2022（令和4）年度）

5

医療に関する状況

(1) 医療費の推移からみた疾病構造（大分類）

本市の国民健康保険疾病統計の推移をみると、入院では、「新生物」が最も多く、次いで「循環器系」、「精神・行動」となっており、外来では、2018(平成30)年は「内分泌、栄養」が最も多くなっていますが、それ以降は「新生物」が最も多く、次いで「内分泌、栄養」、「循環器系」となっています。



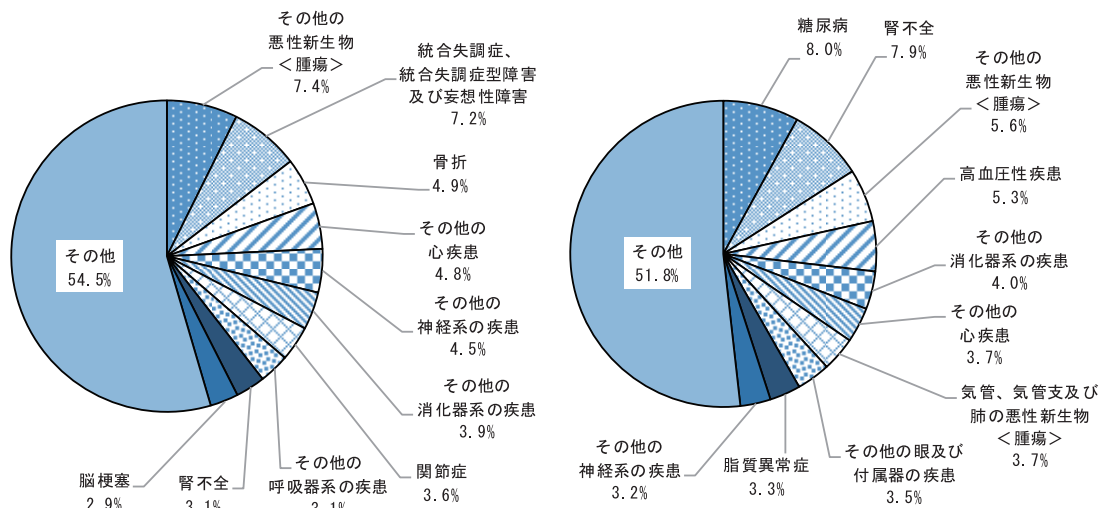
資料：和歌山市国民健康保険疾病統計（各年5月診療分）

（2）入院及び外来の医療費構造（中分類）

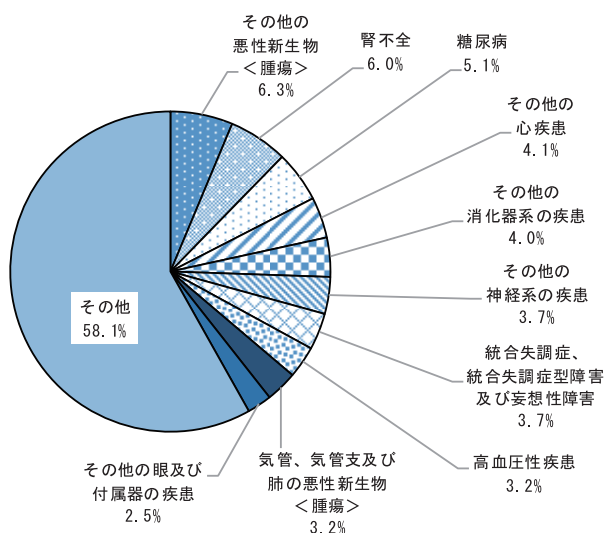
本市の令和4年5月分の医療費の構成をみると、入院では、「その他の悪性新生物<腫瘍>」が最も多く、次いで「統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害」、「骨折」となっており、外来では、「糖尿病」が最も多く、次いで「腎不全」、「その他の悪性新生物<腫瘍>」となっています。

また、入院・外来の合計でみると、「その他の悪性新生物<腫瘍>」が最も多く、次いで「腎不全」、「糖尿病」となっています。

《和歌山市疾病中分類医療費の割合（入院）》 《和歌山市疾病中分類医療費の割合（外来）》



《和歌山市疾病中分類医療費の割合（入院・外来）》



資料：和歌山市国民健康保険疾病統計（2022（令和4）年5月診療分）